

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6732939号
(P6732939)

(45) 発行日 令和2年7月29日 (2020.7.29)

(24) 登録日 令和2年7月10日 (2020.7.10)

(51) Int. Cl.	F I	
F 1 6 B 12/26 (2006.01)	F 1 6 B 12/26	
F 1 6 B 12/02 (2006.01)	F 1 6 B 12/02	C
F 1 6 B 12/38 (2006.01)	F 1 6 B 12/38	
A 4 7 B 96/06 (2006.01)	A 4 7 B 96/06	B
	A 4 7 B 96/06	C
請求項の数 9 (全 11 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号	特願2018-553194 (P2018-553194)	(73) 特許権者	518333443
(86) (22) 出願日	平成29年3月7日 (2017.3.7)		ハーフェレ ベルリン ゲーエムベーハー
(65) 公表番号	特表2019-516044 (P2019-516044A)		ウント コー カーゲー
(43) 公表日	令和1年6月13日 (2019.6.13)		ドイツ連邦共和国 1 2 3 0 7 ベルリン
(86) 国際出願番号	PCT/EP2017/055271		シハウヴェーク 5 0
(87) 国際公開番号	W02017/178152	(74) 代理人	100125254
(87) 国際公開日	平成29年10月19日 (2017.10.19)		弁理士 別役 重尚
審査請求日	平成30年11月29日 (2018.11.29)	(74) 代理人	100118278
(31) 優先権主張番号	202016101880.3		弁理士 村松 聡
(32) 優先日	平成28年4月11日 (2016.4.11)	(72) 発明者	リュディガー ワルツ
(33) 優先権主張国・地域又は機関	ドイツ (DE)		ドイツ連邦共和国 7 2 1 4 9 ノイシュ
			テッテン アルテ ハウプトシュトラッセ
			8
		最終頁に続く	

(54) 【発明の名称】 2つの家具部品を取外し可能に接続するための取付具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

2つの家具部品（2，3）を取外し可能に接続するための取付具（1）であって、第1の家具部品（2）に締結することができる第1の取付具部品（4）と、第2の家具部品（3）に締結することができる第2の取付具部品（5）とを備え、

前記第2の取付具部品（5）は、前記取付具部品（4，5）が互いに差し込まれると、ラッチノーズ（21）によって前記第1の取付具部品（4）の差し込み方向に関する後ろから係合される少なくとも1つの剛性ラッチカム（23）を有し、

前記ラッチノーズは、前記第1の取付具部品（4）の可撓性のラッチ舌状部（20）上に設けられており、

前記ラッチ舌状部（20）は、前記ラッチ舌状部が前記ラッチカム（23）の前記第1の取付具部品（4）の差し込み方向に関する後ろに係合する係止位置から、前記ラッチ舌状部が前記ラッチカム（23）の前記第1の取付具部品（4）の差し込み方向に関する後ろにもはや係止しない取外し位置に移動することができ、

前記取外し位置において前記第2の取付具部品（5）に固定することができ、該固定は、前記取付具部品（4，5）を分離することによって取り外すことができる取付具（1）において、

前記ラッチ舌状部（20）は、その一部分において、少なくとも1つのラッチばね（26）を有し、前記取付具部品（4，5）が互いに差し込まれたときに、前記ラッチばねのばね自由端が、前記第2の取付具部品（5）のカウンタベアリング（27）によって、前

記ラッチ舌状部(20)の撓み面(28)に対して横方向に撓ませることができ、前記ばね自由端は、前記ラッチ舌状部(20)の前記係止位置から前記ラッチ舌状部(20)の前記取外し位置に達する前まで、前記カウンタベアリング(27)によって撓んだままであり、前記ラッチ舌状部(20)の前記取外し位置においてラッチノーズ(21)から離間するように前記カウンタベアリング(27)の前記ラッチ舌状部(20)の撓み面(28)に対する横方向に関する後ろに跳ね戻り、その結果、前記第2の取付具部品(5)に固定されることを特徴とする取付具(1)。

【請求項2】

前記ラッチ舌状部(20)は、いずれの横側においても、ラッチばね(26)を有し、そのばね自由端は、前記取付具部品(4, 5)が互いに差し込まれているとき、前記第2の取付具部品(5)のカウンタベアリング(27)によって前記ラッチ舌状部(20)の前記撓み面(28)に対して横方向に撓ませることができ、前記ばね自由端は、前記ラッチ舌状部(20)の前記係止位置から前記ラッチ舌状部(20)の前記取外し位置に達する前まで、前記カウンタベアリング(27)によって撓んだままであり、前記ラッチ舌状部(20)の前記取外し位置においてラッチノーズ(21)から離間するように前記カウンタベアリング(27)の前記ラッチ舌状部(20)の撓み面(28)に対する横方向に関する後ろに跳ね戻り、その結果、前記第2の取付具部品(5)に固定されることを特徴とする請求項1に記載の取付具。

【請求項3】

前記2つのラッチばね(26)の前記自由端は、前記取付具部品(4, 5)が互いに差し込まれているとき、前記第2の取付具部品(5)の前記カウンタベアリング(27)によって、互いに向かう方向(29)に撓むことができることを特徴とする請求項2に記載の取付具。

【請求項4】

前記第2の取付具部品(5)は、アクセス開口(24)を有するベアリングベース(12)を有し、前記アクセス開口を介して、前記ラッチ舌状部(20)を前記係止位置から前記取外し位置へと撓ませるための工具(25)を導入することができることを特徴とする請求項1 - 3のいずれか1項に記載の取付具。

【請求項5】

前記アクセス開口(24)は、丸穴の形態で、又はスロット開口若しくは十字スロット開口の形態で設計されていることを特徴とする請求項4に記載の取付具。

【請求項6】

前記取付具部品(4, 5)が互いに差し込まれたとき、前記ラッチ舌状部(20)は少なくとも前記第2の取付具部品(5)の前記アクセス開口(24)内に延びることを特徴とする請求項4又は5に記載の取付具。

【請求項7】

前記第1の取付具部品は、ドリルインカップ(4)の形態で設計されていることを特徴とする請求項1 - 6のいずれか1項に記載の取付具。

【請求項8】

前記第2の取付具部品は、ピンが前記第2の取付具部品の表面上に形成されているか、又はねじ(16)若しくはピンのための穴(14)を有する締結脚部(13)を備えた担持部(5)の形態で設計されていることを特徴とする請求項1 - 7のいずれか1項に記載の取付具。

【請求項9】

開放周縁ボア(15)を有する第1の家具部品(2)と、ボア(17)を有する第2の家具部品(3)と、請求項1 - 8のいずれか1項に記載の取付具(1)とを備える構造であって、前記第1の取付具部品(4)は、前記第1の家具部品(2)の前記ボア(15)に挿入され、前記第2の取付具部品(5)は、前記第2の家具部品(3)の前記ボア(17)に挿入され、互いに差し込まれたときに、前記2つの取付具部品(4, 5)がラッチ舌状部(20)によって互いに係止される構造。

10

20

30

40

50

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、2つの家具部品を取外し可能に接続するための取付具に関する。取付具は、第1の家具部品に締結することができる第1の取付具部品と、第2の家具部品に締結することができる第2の取付具部品とを備え、第2の取付具部品は、取付具部品が互いに差し込まれると、ラッチノーズによって後ろから係合される少なくとも1つの剛性ラッチカムを有し、ラッチノーズは、第1の取付具部品の可撓性のラッチ舌状部上に設けられており、ラッチ舌状部は、当該ラッチ舌状部がラッチカムの後ろに係合する係止位置から、ラッチカムの後ろにもはや係止しない取外し位置に移動することができ、取外し位置において第2の取付具部品に固定することができ、この固定は、取付具部品を分離することによって取り外すことができる。本発明はまた、このような取付具によって互いに接続された2つの家具部品を備える構造にも関する。

10

【背景技術】

【0002】

このような2部品取付具は、例えば、特許文献1（欧州特許出願公開第0681109号明細書）から公知となっており、図7には、2つの剛性拘束カムが形成された第2の取付具部品が示されている。その取外し位置では、第1の取付具部品の弾性ラッチ舌状部が拘束カムの後ろに係合され得、2つの取付具部品が分離されているときに、弾性ラッチ舌状部は、拘束カムに接触しなくなると、再びその接続準備完了の開始位置に跳ね戻る。その後、2つの取付具部品を再び共に接合することにより、再び、第1の取付具部品の弾性ラッチ舌状部のラッチノーズが、対応する拘束カムの後ろに係合する。2つの拘束カムの代わりに、1つのみの中央に配置された拘束カムを設けることも可能である。この公知の取付具では、弾性ラッチ舌状部は、拘束カムを通過してその取外し位置に移動することができる程度に弾性的に変形可能でなければならない。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】欧州特許出願公開第0681109号明細書

30

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

上記に対して、本発明の目的は、冒頭で言及したタイプの取付具において、取外し位置におけるラッチ舌状部の代替的な固定を規定することにある。

【課題を解決するための手段】

【0005】

この目的は、本発明によれば、ラッチ舌状部が、その一部分において、少なくとも1つのラッチばねを有し、取付具部品が互いに差し込まれたときに、当該ラッチばねのばね自由端が、第2の取付具部品のカウンタベアリングによって、ラッチ舌状部の撓み面に対して横方向に撓ませることができ、自由ばね端は、ラッチ舌状部の取外し位置に達する前まで、係止位置からカウンタベアリングによって撓んだままであり、ラッチ舌状部の取外し位置においてカウンタベアリングの後ろに跳ね戻り、その結果、第2の取付具部品に固定されることにより達成される。

40

【0006】

本発明によれば、2つの取付具部品が互いに差し込まれているときには、遅くともラッチ舌状部の係止位置において、少なくとも1つのラッチばねが、カウンタベアリング上でラッチ舌状部の撓み面に対して横方向に撓み、したがって、プレストレスを与えられる。その後、ラッチ舌状部の取外し位置において、ラッチばねは跳ね戻り、カウンタベアリングの後ろに係合し、その結果、撓んだラッチ舌状部が担持部にラッチされる。

50

【 0 0 0 7 】

好ましくは、ラッチ舌状部は、いずれの側においても、このタイプのラッチばねを有し、そのばね自由端は、取付具部品が互いに差し込まれているとき、第2の取付具部品のカウンタベアリングによってラッチ舌状部の撓み面に対して横方向に撓ませることができる。

【 0 0 0 8 】

この目的は、本発明によれば、ラッチノーズから外側に面するその後方領域において、ラッチ舌状部が、ラッチ舌状部の取外し位置において、スロット壁の後ろにラッチするまで、第2の取付具部品の差し込み方向に開いている第2の取付具部品のスロットを介して押し込まれるラッチヘッドの形態で設計されることによって達成される。これは、2つの取付具部品が分離されているときに、ラッチヘッドがスロットから出て、ラッチ舌状部が再び接続準備完了の開始位置に跳ね戻るまで、ラッチ舌状部が担持部に固定されたままであることを意味する。

10

【 0 0 0 9 】

ラッチばねを係止位置から取外し位置に撓ませるために、ラッチ舌状部は第2の取付具部品からアクセス可能でなければならない。好ましくは、第2の取付具部品は、アクセス開口を有するベアリングベースを有し、アクセス開口を介してラッチ舌状部を撓ませるための工具を導入することができる。このアクセス開口は、丸穴、又はスロット開口若しくは十字スロット開口であってもよい。取付具部品が互いに差し込まれたときに、ラッチ舌状部がアクセス開口内に延びるか、又はさらにはそこから突出する場合、ラッチ舌状部が誰かの指によって取外し位置へと偏向されることもできる。

20

【 0 0 1 0 】

本発明の好ましい実施の形態では、第1の取付具部品は、拡開可能なカップウイングを有するドリルインカップの形態で設計され、第2の取付具部品は、その上にピンを形成されるか、又は、ねじ若しくはピンのための穴を有する締結脚部を有する担持部の形態で設計される。取付具部品が互いに差し込まれると、カップウイングは、差し込まれた担持部によって外側に広げられ、したがって、ボア壁に固定される。

【 0 0 1 1 】

本発明はまた、下側に開放周縁ボアを有する第1の家具部品と、ボアを有する第2の家具部品と、上記設計の取付具とを含む構成にも関する。第1の取付具部品が、第1の家具部品のボアに挿入され、第2の取付具部品が、第2の家具部品のボアに挿入され、それらが互いに差し込まれると、2つの取付具部品がラッチ舌状部によって互いに係止される。好ましくは、2つの家具部品は、木材又は木質繊維材料から形成される。

30

【 0 0 1 2 】

本発明のさらなる利点は、本明細書、特許請求の範囲、及び図面から取得することができる。同様に、上述の特徴及び以下に示す特徴は、各々、単独で又は共に任意の所望の組み合わせで使用することができる。図示され且つ説明された実施の形態は網羅的なリストとして理解されるべきではなく、むしろ本発明の説明のための例示的な特徴である。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 3 】

40

【 図 1 】 2つの取付具部品を有する本発明に係る取付具の第1の実施の形態を示す図である。

【 図 2 a 】 第1の家具部品に締結された第1の取付具部品を示す図である。

【 図 2 b 】 第2の家具部品に締結された第2の取付具部品を示す図である。

【 図 2 c 】 2つの取付具部品によって互いに締結された2つの家具部品を示す図である。

【 図 3 a 】 係止端プラグ位置まで互いに差し込まれている2つの取付具部品を示す図である。

【 図 3 b 】 係止端プラグ位置まで互いに差し込まれている2つの取付具部品を示す図である。

【 図 3 c 】 係止端プラグ位置まで互いに差し込まれている2つの取付具部品を示す図であ

50

る。

【図 4 a】工具によって係止解除されている 2 つの取付具部品を示す図である。

【図 4 b】工具によって係止解除されている 2 つの取付具部品を示す図である。

【図 4 c】工具によって係止解除されている 2 つの取付具部品を示す図である。

【図 5 a】図 3 b の V a - V a に沿った 2 つの取付具部品の詳細図である。

【図 5 b】図 3 c の V b - V b に沿った 2 つの取付具部品の詳細図である。

【図 5 c】図 4 b の V c - V c に沿った 2 つの取付具部品の詳細図である。

【図 6】2 つの取付具部品が異なる工具によって外されている本発明に係る取付具の第 2 の実施の形態を示す図である。

【図 7】係止端プラグ位置にある本発明に係る取付具の第 3 の実施の形態を示す図である

10

。【図 8 a】図 7 に示す取付具の 2 つの取付具部品を外す動作を示す図 7 の V I I I - V I I I に沿った断面図である。

【図 8 b】図 7 に示す取付具の 2 つの取付具部品を外す動作を示す図 7 の V I I I - V I I I に沿った断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0014】

図面の以下の説明では、同じ又は機能的に同じ構成要素については、同一の参照符号を使用する。

【0015】

20

図 1 に示す取付具 1 は、2 つの家具部品 2 , 3 (図 2) を取外し可能に接続する役割を果たし、第 1 の家具部品 2 に締結することができる第 1 の取付具部品 4 と、第 2 の家具部品 3 に締結することができる第 2 の取付具部品 5 とを備える。図示された例示的な実施の形態では、取付具 1 は、柵 2 をカーカス壁 3 に締結するための柵コネクタとして機能する。柵 2 及びカーカス壁 3 は、例えば木質繊維板である。

【0016】

第 1 の取付具部品は、カップベース 6、端部側のカップ開口 7、及び、周壁内に設けられ、カップ開口 7 の方向に開き、カップベース 6 まで延伸する長手方向スロット 8 を有する単一片ドリルインカップ 4 の形態で設計されている。2 つのカップウィング 9 が、長手方向スロット 8 の両側の周壁から切り取られており、上記カップウィングは、カップベース 6 に面する側においてのみ周壁に接続され、周壁を越えて外側に拡開されている。カップウィング 9 の外側には、軸方向に前後に配置された複数の周方向リブ 10 の形態のリブ配列が形成されている。さらに、カップ開口 7 には、半径方向外側に突出する複数の周縁部分 11 が深さ制限の目的で設けられている。ドリルインカップ 4 は、例えばプラスチック製である。

30

【0017】

第 2 の取付具部品は、ベアリングベース 12 と、穴 14 を備えた締結脚部 13 とを有する単一片担持部の形態で設計されており、上記締結脚部は、ベアリングベース 12 上で上方に突出する。担持部 5 は、例えばダイカスト亜鉛製である。

【0018】

40

図 2 a に示すように、ドリルインカップ 4 は、深さ制限手段が許す限り手動で柵 2 の下側の開口周縁ボア 15 に押し込まれる。拡開されたカップウィング 9 は、ドリルインカップ 4 が押し込まれると、ドリルインカップがそれ自体で保持されることを可能にするが、ボア 15 内にねじれた状態で挿入されたドリルインカップ 4 は、依然として手で位置整合することができる。

【0019】

図 2 b に示すように、担持部 5 は、穴 14 を通って係合すると共にカーカス壁 3 のボア 17 にねじ込まれるねじ 16 によってカーカス壁 3 に固定される。図示されたねじ接続バージョンに代わるものとして、担持部 5 が、穴 14 を通って係合すると共にボア 17 に差し込まれる別個のピンによって、又は、ねじ穴 14 の代わりに担持部 5 に形成されると共

50

にボア 17 に差し込まれるピンによって、カーカス壁 3 に締結されることも可能である。任意選択的に担持部に形成されたピンがその上側にくさび形ノーズを有することができる。

【0020】

図 2 c に示すように、棚 2 は、カーカス壁 3 に締結されている担持部 5 へ上方から懸架されたドリルインカップ 4 を有し、ドリルインカップ 4 は、その長手方向スロット 8 が担持部 5 の締結脚部 13 に外嵌されている。ドリルインカップ 4 及び締結脚部 13 の傾斜案内面 18, 19 は、懸架動作中にドリルインカップ 4 がカーカス壁 3 の方向に引き込まれ、したがって、棚 2 がカーカス壁 3 との間に隙間がないように当接することを意図している。ドリルインカップ 4 がベアリングベース 12 上に着座すると、図 2 c に示すプラグ端位置に達する。このプラグ端位置では、一方では、より詳細に後述するように、ドリルインカップ 4 は、担持部 5 の差し込み方向とは反対の方向に係止（クリッピング）される。他方、ドリルインカップ 4 の 2 つのウィング 9 は、締結脚部 13 によって外側に拡開され、したがって、周方向リブ 10 が、ボア 15 の壁内、すなわち、棚 2 の木質材料に押し込まれ、それ故、ドリルインカップ 4 はボア 15 に堅固に固定される。

【0021】

図 3 a ~ 図 3 c は、ドリルインカップ 4 を担持部 5 に係止する動作を詳細に示している。可撓性のラッチ舌状部 20 がドリルインカップ 4 内に収められ、ラッチ舌状部はカップ開口 7 に面しているその自由端に、ランオンスロープ 22 を有するラッチノーズ 21 を有する。ラッチノーズ 21 と相互作用する堅固なラッチカム 23 が、担持部 5 上に配置されている。ドリルインカップ 4 と担持部 5 とが互いに差し込まれると、ラッチ舌状部 20 は、ラッチカム 23 上のラッチノーズ 21 のランオンスロープ 22 によってその開始位置（図 3 a）から撓み、したがって、プラグ端位置において、ラッチノーズ 21 がラッチカム 23 を越えて押され、ラッチ舌状部 20 がそのラッチノーズ 21 を介してラッチカム 23 の後ろに跳ね戻る（図 3 c）まで、プレストレスを与えられる（図 3 b）。ラッチカム 23 の後ろに係合するラッチ舌状部 20 は、その差し込み方向とは反対に、ドリルインカップ 4 を担持部 5 に係止し、それ故、もはや棚 2 がカーカス壁 3 から取外されることはできない。

【0022】

取外するためには、図 4 a ~ 図 4 c に示す手順を使用する。細いピン 25（直径約 1.2 mm）の形態の工具が、ベアリングベース 12 の小さな丸いアクセス開口 24 を通って上方に押し上げられ、上記ピンは、ラッチノーズ 21 のランオンスロープ 22 に当接し、したがって、ラッチ舌状部 20 を係止位置（図 3 c）から、上記ラッチ舌状部がもはやラッチカム 23 の後ろに係合していない取外し位置（図 4 a）に撓ませる。2 つの取付具部品 4, 5 が分離されているときに、ラッチ舌状部 20 が再び接続準備完了開始位置に戻る（図 3 a、図 4 c）まで、ピン 25 が取外された後でさえ、ラッチ舌状部 20 はこの取外し位置に固定されたままである（図 4 b）。

【0023】

取外し位置に固定するためには、図 1 及び図 5 a に詳細に示すように、ラッチ舌状部 20 は、そのラッチノーズ 21 の両側にそれぞれのラッチばね 26 を有し、担持部 5 は、ベアリングベース 12 の上で上方に突出する 2 つのカウンタベアリング 27 を有する。2 つの取付具部品 4, 5 が互いに差し込まれているとき、遅くともラッチ舌状部 20 の係止位置において、ラッチばね 26 はカウンタベアリング 27 上で、夫々、ラッチノーズ 21 に向かう方向 29、すなわち互いに向かう方向において、ラッチ舌状部 20 の撓み面 28 に対して横方向に撓み、したがって、反対方向にプレストレスを与えられる（図 5 b）。取付具部品 4, 5 が互いに差し込まれたときに互いに接触するラッチばね 26 及びカウンタベアリング 27 の端面 30, 31 は、それに対応して、差し込み方向に対して斜めになり、ラッチばね 26 を相互に向かう方向に撓ませる。カウンタベアリング 27 は、ラッチ舌状部 20 の取外し位置に達する前まで係止位置から延びており、それ故、ラッチ舌状部 26 はカウンタベアリング 27 に対して撓み、プレストレスを与えられたままになる。ラッ

チ舌状部 20 の取外し位置において、ラッチばね 26 は、その後、跳ね戻り、すなわち、互いから離れる外方に跳ね、カウンタベアリング 27 の後ろに係合し（図 5 c）、その結果、取外し位置において、偏向されたラッチ舌状部 20 は、担持部 5 にラッチされ、プレストレスが与えられる（図 4 b）。ラッチ舌状部 20 は、2 つの取付具部品 4, 5 が分離されているときに、もはやカウンタベアリング 27 と接触しなくなり、再び接続準備完了開始位置に跳ね戻る（図 3 a、図 4 c）まで、この取外し位置に固定されたままである。

【0024】

図示した 2 つの横方向のラッチばね 26 の代わりに、代替形態として、1 つのラッチばねのみを設けることも可能である。

【0025】

図 1 の取付具とは対照的に、図 6 に示す取付具 1 のベアリングベース 12 のアクセス開口 24 は、スロット開口又は十字スロット開口の形態で設計されており、その結果、それに差し込まれたドライバ 25 を用いて、ラッチ舌状部 20 を係止位置から図示の取外し位置に撓ませることができる。

【0026】

図 7 に示された取付具 1 は、取外し位置においてラッチ舌状部 20 を固定する異なる手段のみが、図 1 の取付具とは異なる。図 8 a、図 8 b に示すように、ラッチ舌状部 20 の最も外側の端部は、ラッチノーズ 21 から見て外側に面する後方領域にある 2 つの半径方向に先細りの外面 33 を有するラッチヘッド 32 の形態で設計されている。担持部 5 は、そのベアリングベース 12 内に上方に開いたスロット 34 を有する。ラッチヘッド 32 は、図 8 a に示されているラッチ舌状部 20 の係止位置においてスロット 34 から離間しているが、図 8 b に示されているラッチ舌状部 20 の取外し位置において担持部 5 のスロット壁の後ろにラッチするまでスロット 34 を介して押し込まれており、したがって、撓んだラッチ舌状部 20 は、担持部 5 にラッチされ、プレストレスを与えられている。2 つの取付具部品 4, 5 が分離されているときに、ラッチヘッド 32 がスロット 34 及びラッチ舌状部 20 から上向きの方角に出ていると共に、再び接続準備完了の開始位置に跳ね戻るまで、ラッチ舌状部 20 はこの取外し位置に固定されたままである。

【0027】

図示されているように、ラッチ舌状部 20 の最外端に存在する代わりに、ラッチヘッド 32 は他の位置に設けることもできる。特に、ラッチばね 20 の後側全体が後方に先細りのラッチ断面を有することもできる。

【0028】

図示されていない実施の形態では、担持部 5 のベアリングベース 12 のアクセス開口 24 は、取付具部品 4, 5 が互いに差し込まれたときに、ラッチ舌状部 20 が誰かの指によって係止位置から取外し位置へと撓ませることができるようなサイズである。この目的のために、ラッチ舌状部 20 がアクセス開口 24 へと延びるか、又はアクセス開口 24 から突出させることができる。

【符号の説明】

【0029】

- 1 取付具
- 2, 3 家具部品
- 4 第 1 の取付具部品
- 5 第 2 の取付具部品
- 20 ラッチ舌状部
- 21 ラッチノーズ
- 23 ラッチカム
- 27 カウンタベアリング
- 28 撓み

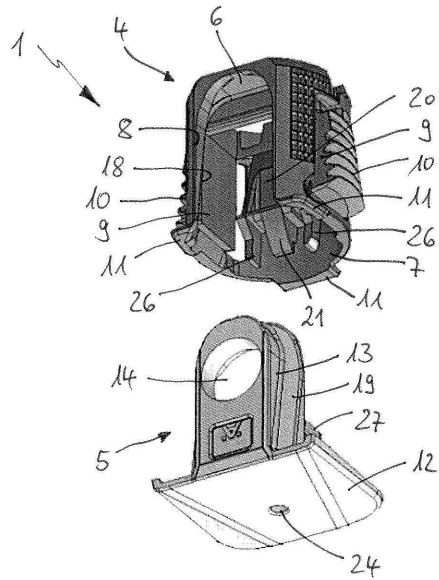
10

20

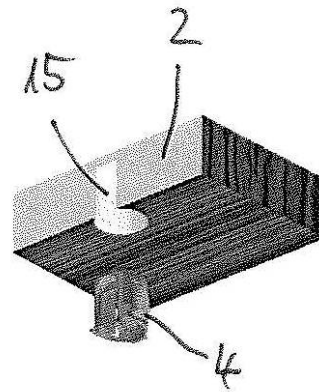
30

40

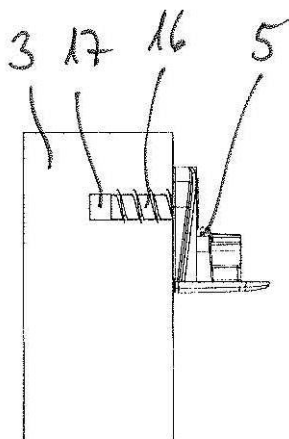
【図 1】



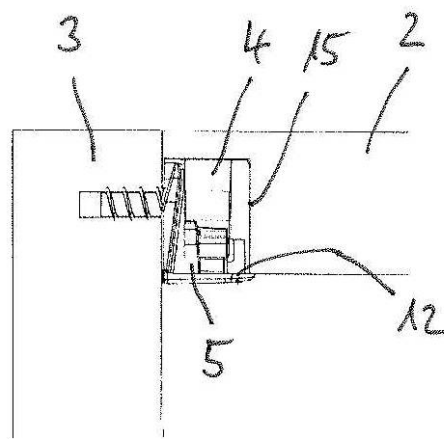
【図 2 a】



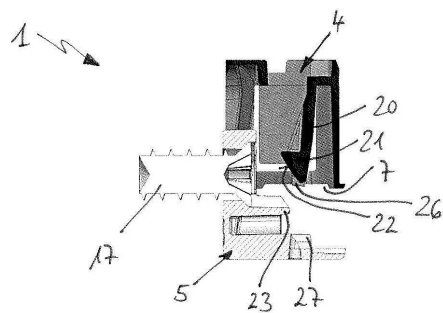
【図 2 b】



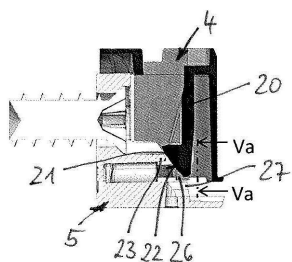
【図 2 c】



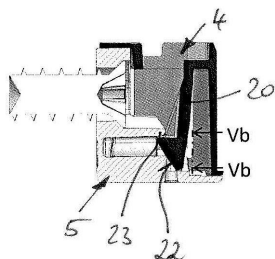
【図 3 a】



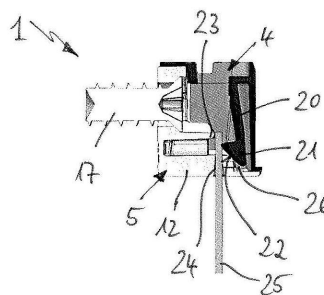
【図 3 b】



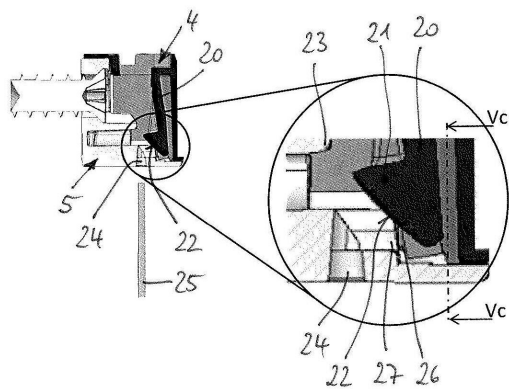
【図 3 c】



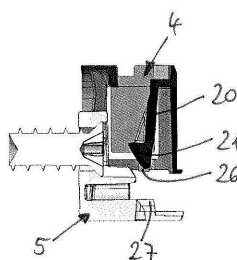
【図 4 a】



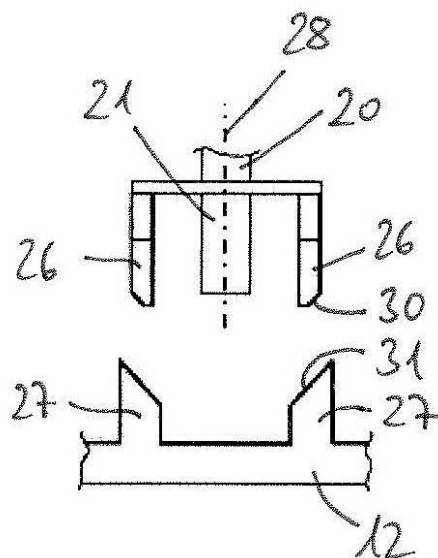
【図 4 b】



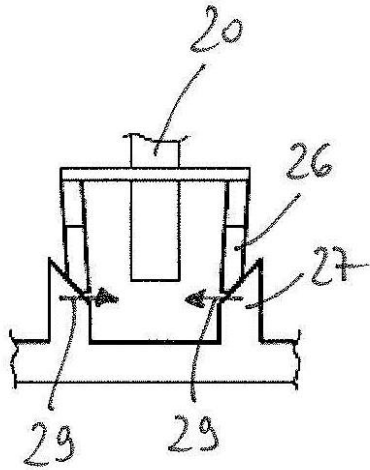
【図 4 c】



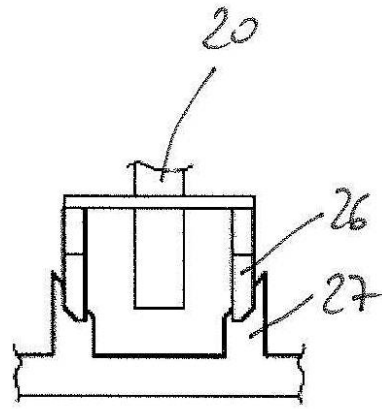
【図 5 a】



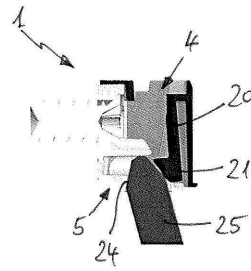
【図 5 b】



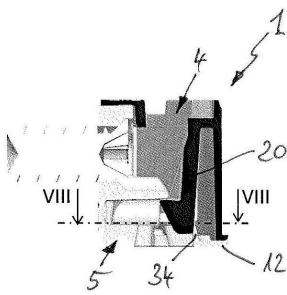
【図 5 c】



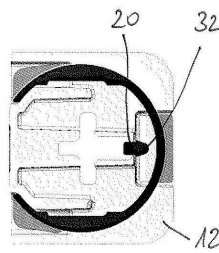
【図 6】



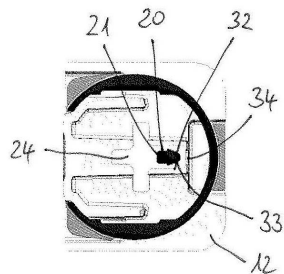
【図 7】



【図 8 b】



【図 8 a】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.

F I

A 4 7 B 96/06

E

(72)発明者 ペール ライシュタート

ドイツ連邦共和国 1 5 5 6 6 シェーンアイヘ ヴァルトシュトラーセ 7 2

(72)発明者 ギュンター ニッチマン

ドイツ連邦共和国 7 2 2 8 5 プファルツグラーフエンヴァイラー ゴットリーブ - ヘンススラ
ー - シュトラーセ 1 8

審査官 熊谷 健治

(56)参考文献 特表 2 0 0 0 - 5 0 4 4 0 0 (J P , A)

欧州特許出願公開第 0 1 5 9 3 8 6 2 (E P , A 1)

欧州特許出願公開第 0 1 5 3 0 9 2 6 (E P , A 2)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

F 1 6 B 1 2 / 0 0 - 1 2 / 6 0

A 4 7 B 9 6 / 0 6